



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

向かい風の中を進むヨットのように

本校は139年の伝統校です。伝統校でよく言われるのが、「伝統を守る」という言葉です。私も21代校長として、本校の伝統を守りたいと思っています。

では、福岡女学院の伝統とは何でしょう。初代ギール校長は、「本校は女性の新しい生き方を見つけられる学校」と言い、その言葉は本校のスピリットと言えます。

私は、変えないものは「スピリット」であり、変えなくてはならないものは「やり方」だということをよく話します。

ただ、変えてはならないものを守るためには、変化を恐れてはならないことは歴史的にも言えることだと思います。「**変わらないために、変わり続ける**」。つまり、成長と進化により「変わり続ける」ことこそ、その存在価値が「変わらない」ことを支えているのです。本校の伝統はそうして守られていると思います。

ある生物学者は、「私たちの身体を構成している分子は、すごい速さで分解され、食物として取り入れた分子と置きかえられている」と言います。つまり身体は常に作り変えられることで、維持されているのです。私たちの身体は、絶え間ない変化によって支えられているということです。

「**変わらないものを守るためには、変わらなくてはならない**」。言葉遊びのように聞こえるかもしれませんが、これからの時代にとっても重要な考えになると思います。変わるのは、変わらないためでもともとあると考えています。

私は、来年度から本校音楽科を変えます。もちろん「変わらない伝統」を守るためです。音楽科は61年という歴史があり、他校にはない学科でもあります。それこそ、卒業生からすると「変えたら、私たちの音楽科ではなくなる」と言われるかもしれません。私は、5月に音楽科卒業生会の集まりに行き、このことについてお話しさせていただきました。「本校の宗教教育と普通科教育を包み込んでいるのが音楽であり、音楽が本校の学校風土をつくっている。本校の存在価値として、音楽科は大切です。だから、守りたい。だから、変えていく」とお話しさせていただきました。卒業生からのネガティブな反応は全くありませんでした。卒業生からは「私たちの同級生でも、今、いろんな場所で活躍している人がたくさんいます」と言う話にもなり、しばらくの時間、『あの人は今』みたいな感じで盛り上がりました。意外と音楽科の方たちは体育会系だということも実感しました（話が合う・笑）。



時間は常に流れています。「今」は、次の瞬間には「過去」になり、「未来」が、次の瞬間には「今」になります。そう考えると、「今」のままだと「過去」を維持していることになります。

人もそうです。今日の自分と来年の自分が同じだったら……。その場合よく言われるのが「成長していない」と。実は、そうではなく、時間がたっているのに変わらないということは、「人としての価値が減少している」ということになるのです。

多くの人は、「よりよく変わらなくてはならない」と頭ではわかっています。ところが、例えば運動をしなければいけない、食生活を改善した方がいい、頭ではわかっている、何か理由をつけて行動に移せない。すなわち、「変わることの難しさ」という壁に直面します。

なぜ、こういう心理が働くのでしょうか。

まず1つ目は、何もしないという居心地の良さをおぼえる「現状安住主義」。2つ目は、変化による失敗を強く嫌う「変化に対する嫌悪感」。3つ

目は、前回やった通りという過去の選択にとらわれる「認識の麻痺」。最後は、他人の視線が気になり行動が制限される「自意識過剰」です。こういうバイアスが働くと、人としての価値を減少させていきます。

ヨットを思い浮かべてください。追い風の際は、帆いっぱい風を受けて海上をスムーズに進むことができます。しかし、向かい風になったらそうはいきません。向かい風に逆らわないように、風を斜めに受けながらジグザグを繰り返して前に進むしかない、つまり、変化を繰り返しながら前に進むのです。

先の見通せない時代を生き抜くためには、向かい風の海を進むヨットのように生きるのです。人生は、向かい風の方が多いので「よりよく生きる」というスピリットは大切にしながら、ジグザクしながら、変化を繰り返していくのです。

7/12（金）、16（火）、17（水）の3日間は「授業公開日」になります。
ご来校お待ちしております。その際、音楽科の新しい取り組みについても説明する時間をつくります。

（学校長 重枝 一郎）